

# お知らせ

平成 20 年 5 月 30 日

同時資料提供先

合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者クラブ、島根県政記者会、  
岡山県政記者クラブ、広島県政記者クラブ、山口県政記者クラブ、  
山口県政記者会、山口県政滝町クラブ、中国地方建設記者クラブ

## 水生生物調査に延べ 2,181 名参加！ 良好な水質状況を維持

～中国地方整備局 平成 19 年度 水生生物調査の実施結果について～

### <水生生物調査とは？>

川底にどのような生物が住んでいるかを調べることで、その地点の比較的長い期間の水質の状態を簡易的に判定する、住民参加型の調査です。誰にでも簡単に水質状況が判定できるので、昭和 59 年から小・中学生、高校生を中心に、多くの方々に参加していただいています。

水生生物調査は、河川と親しみながら調査をすることで、身近な存在である河川に対して、河川愛護、水質浄化等の関心を高めてもらうことを目的として実施しています。

### <平成 19 年度実施状況>

中国地方の一級水系の 94 地点において、5 月から 9 月にかけて小・中学生、高校生を中心に 74 団体、延べ 2,181 名の参加を得て実施しました。

### <平成 19 年度調査結果>

水質を [I] きれいな水～ [IV] 大変きたない水の 4 つの階級に分けて取りまとめた結果、[I] きれいな水および [II] 少しきたない水と評価された地点が全体の 99% (平成 18 年度：95%) となり、概ね良好な結果となりました。

## 国土交通省 中国地方整備局

○問い合わせ先					
国土交通省中国地方整備局					
電話番号 (082) 221-9231 (代表)					
(担当) 河川部	河川管理課長	岸本 芳雄	よしお	(内線 3751)	
(担当) 河川部	建設専門官	後藤 寿久	ごとう としひさ	(内線 3758)	
(広報担当窓口)	総務部 広報広聴対策官	やすだ ひろのぶ	安田 博信	(内線 2117)	
	企画部 環境調整官	やまもと しょうじ	山本 正司	(内線 3114)	

平成19年度

水生生物による水質の簡易調査の実施結果

中国地方整備局

調査風景－1

千代川水系 千代川 <sup>さぬき</sup>佐貫地点（鳥取県）



天神川水系 天神川 <sup>せきがねみずべのがっこう</sup>関金水辺の楽校（鳥取県）



日野川水系 日野川 <sup>くすもぜき</sup>車尾堰地点（鳥取県）



斐伊川水系 忌部川 <sup>にしいんべ</sup>西忌部地点（島根県）



江の川水系 江の川 <sup>かわと</sup>川戸地点（島根県）



高津川水系 高津川 <sup>かんだ</sup>神田地点（島根県）



調査風景－２

江の川水系 江の川 <sup>いわいばし</sup> 祝橋地点 (広島県)



佐波川水系 佐波川 <sup>うるしお</sup> 漆尾地点 (山口県)



小瀬川水系 小瀬川 <sup>りょうごくばし</sup> 両国橋地点 (広島県)



太田川水系 太田川 <sup>じんしんばし</sup> 壬辰橋地点 (広島県)



芦田川水系 芦田川 <sup>おおいでとうしゅ</sup> 大井手頭首地点 (広島県)



吉井川水系 吉井川 <sup>わけばし</sup> 和気橋地点 (岡山県)



旭川水系 旭川 <sup>みの</sup>三野地点（岡山県）



高梁川水系 高梁川 <sup>かわべばし</sup>川辺橋地点（岡山県）



## 2. 調査の目的

河川の中にはさまざまな生物が生息していますが、特に川底に生息する生物（水生生物）は、過去から調査時点までの長時間の水質状況を反映した結果でもあります。

したがってどのような生物が生息しているかを調べることによって、その地点の比較的長い期間の水質の状態を知ることができます。

国土交通省と環境省では、それぞれ昭和59年から「水生生物による水質の簡易調査」（以下「水生生物調査」という）をはじめています。

水生生物調査は、誰にでも簡単に水質状況が判定できるので、小・中学生、高校生を中心に、多くの方々に参加していただき、河川と親しみながら、河川の水質状況を把握し、水質保全施策の基礎資料を得るとともに、調査を通じて私達の身近な存在である河川に対して、河川愛護、水質浄化等の関心を高めてもらうことを目的として実施しています。

## 3. 参加者数と調査地点数

**小・中学生を中心に、74団体、延べ2,181名の参加を得て、中国地方一級水系94地点で実施。**

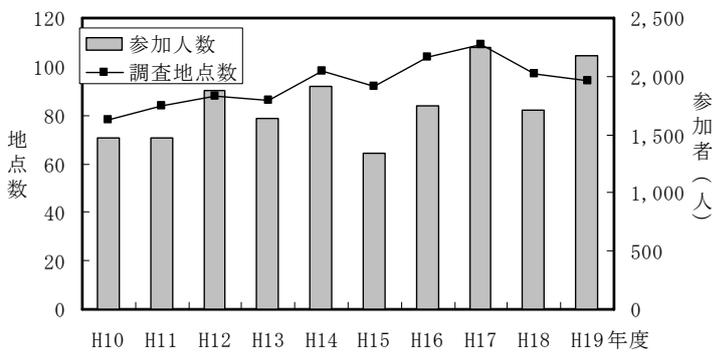


図-1 参加者数と調査地点数

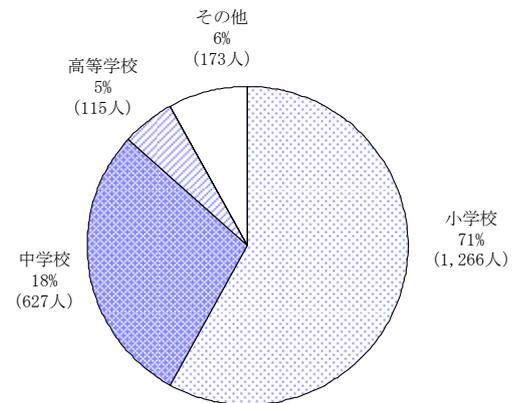


図-2 平成19年度 調査参加団体構成比

平成19年度の調査は、中国地方の一級河川の94地点において、5月から9月にかけて、74団体、延べ2,181人の参加を得て実施しました（P.8 表-2参照）。

平成18年度は、7月豪雨や台風の影響で調査が中止になり参加者が少なかったのですが、平成19年度は過去10年間で平成17年に次ぎ、2番目に多い参加者数となっています。

今回多くの子供達に水に親しみながら調査をしていただき大変貴重なデータを得ることができ、“きれいな川”に対するより具体的なイメージを持って頂く機会となりました。

#### 4. 調査の方法

この調査は、国土交通省河川局編「川の生きものを調べよう～水生生物による水質判定～」を基に、川底に生息する水生生物を採取し、表－1に示す『水のきれいさ』の指標となっている生物の種類数と個体数により、川の水質状況を判定するものです。

表－1 水のきれいさの程度（階級）とその指標となる生物

I：きれいな水の生物		II：少しきたない水の生物	
カワゲラ	ヘビトンボ	コガタシマトビケラ	コオニヤンマ
ヒラタカゲロウ	ブユ	オオシマトビケラ	スジエビ
ナガレトビケラ	アミカ	ヒラタドROMシ	○ヤマトシジミ
ヤマトビケラ	サワガニ	ゲンジボタル	○イシマキガイ
	ウズムシ		カワニナ
III：きたない水の生物		IV：大変きたない水の生物	
ミズカマキリ	○ニホンドロソコエビ	セスジユスリカ	サカマキガイ
タイコウチ	タニシ	チョウバエ	エラミミズ
ミズムシ	ヒル	アメリカザリガニ	
○イソコツブムシ			

注) ○は、海水の少し混ざっている汽水域の生物

#### ・判定方法

水質階級の判定方法は、調査地点毎に出現した個体数の多かった指標生物2種類（ただし、3種類の指標生物についてほぼ同じ個体数であった場合は、最大3種類）については2点、それ以外の指標生物については1点として点数をつける。

- ・各階級ごとに各指標生物の点数を合計する。
- ・点数のもっとも高い階級をその地点の水質階級と判定する。
- ・ただし、複数の階級について同点がある場合には、水質の良い階級をその地点の階級とする。例えば、階級Iと階級IIが同点の場合は階級Iとする。

## 5. 調査結果概要

### 水質階級 [ I ]、[ II ] と判定された地点が全体の 99%

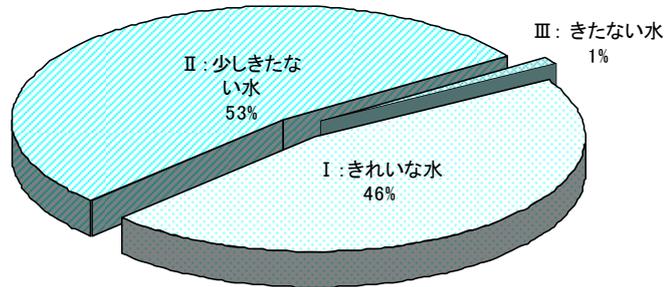


図-3 平成19年度 水質階級構成比

水生生物からみた中国地方一級河川の水質状況は、一級水系調査地点94地点のうち、「I：きれいな水」が43地点、「II：少しきたない水」が50地点、「III：きたない水」が1地点、「IV：大変きたない水」が0地点となりました。この結果、[I]、[II]と判定された地点が全体の99%（平成18年度：95%）になり、中国地方の一級河川は良好な状態を保っています。

平成18年度と比較すると水質階級が上がった地点数は、5地点（[II] → [I]：4地点、[III] → [II]：1地点）と水質階級が下がった9地点（[I] → [II]：9地点、[II] → [III]：0地点）を下回っています。

今後も生活排水などの川の水質に影響を及ぼすものに対する一人一人の心掛けが必要です。

### 中国地方の一級河川の水質は、良好な状態を維持

図-4は、過去10年間の判定水質階級比率の推移を表したものですが、平成19年度は階級IとIIを合わせた比率は99%であり、中国地方の一級水系は、継続的に良好な水質を保っていると言えます。

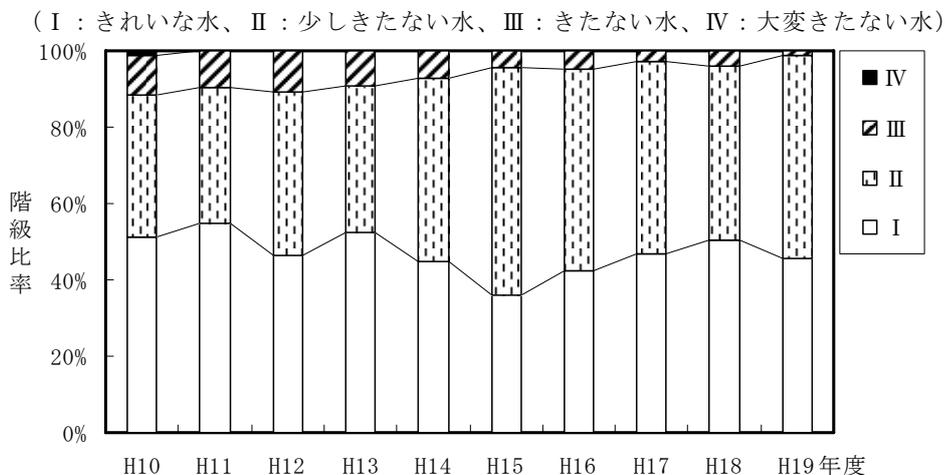


図-4 判定水質階級比率の推移

※環境庁と調査方法・判定基準を統一したため、H11年度までの判定基準による判定結果とは若干異なる場合があります。



## 5. 河川別参加者、参加団体等集計

表－２ 水生生物による水質の簡易調査「平成19年度実施結果」

(水質階級 I：きれいな水 II：少しきたない水 III：きたない水 IV：大変きたない水)

県名	水系名	調査 地点数 (地点)	参加人数 (人)	参加 団体数 (団体)	判定水質階級 (地点)			
					I	II	III	IV
鳥取県	千代川	8	149	6	8			
	天神川	9	265	9	9			
	日野川	5	117	6	3	2		
島根県	斐伊川	13	495	8	9	4		
	江の川下流	6	139	5	1	5		
	高津川	3	49	2		3		
山口県	佐波川	3	75	6		3		
広島県・山口県	小瀬川	3	58	3	3			
広島県	江の川上流	12	439	10	2	10		
	太田川	14	229	9	7	7		
	芦田川	7	89	5	1	5	1	
岡山県	高梁川	4	19	2		4		
	旭川	2	52	2		2		
	吉井川	5	6	1		5		
合計		94	2,181	74	43	50	1	0
					46%	53%	1%	0%
前年 (平成18年)		95	1,621	72	47	44	4	0
					49%	46%	4%	0%

【参加団体内訳】

小学校	35校	1,266人
中学校	26校	627人
高等学校	6校	115人
その他	7団体	173人